

松下国際財団 研究助成 研究報告

【氏名】 咲川 可央子

【所属】(助成決定時)神戸大学大学院 国際協力研究科 国際開発政策専攻 博士後期課程

【研究題目】 グローバル化と地域所得格差: メキシコにおける地域間収束、北米とメキシコの収束についての実証研究

【研究の目的】

経済発展の世界格差は著しい。なぜ、ある国が急速な経済発展を遂げる一方で、ある国が停滞するのか、また、経済発展を遂げるための条件は何か、という問題に対する答えを探すのは、開発経済学の重要な課題である。

同様に、国内においても経済発展の著しい地域格差が見られる。ある地域が発展軌道に乗る一方で、ある地域は停滞、さらには衰退していく。本研究の目的は、1. 経済発展の地域格差の程度はどの程度であるか、2. それが時間と供にどのように変遷しているのか、3. なぜ一国内においてそのような経済パフォーマンスの相違が生じるのか、4. 地域が発展するためには何が必要か、について検討することである。

研究の対象国としては、メキシコを選択したい。メキシコは、所得や人的資本といった経済パフォーマンスの地域格差が比較的大きい国として知られている。さらに、既存の研究は、経済自由化期(1985年以降)のメキシコでは地域格差が拡大しているという認識で一致している。メキシコを事例に、地域開発について上記の問題について検討する。

【研究の内容・方法】

「グローバル化と地域所得格差」と題する本研究は、1. メキシコの地域間収束、2. メキシコ北部と米国との収束という2つの実証研究を中心とする。

メキシコの地域間収束についての分析アプローチ方法は、新古典派経済成長論による収束(Convergence)アプローチ(σ -Convergence, β -Convergence)と、所得の分布の時系列変化を直接見る収束クラブ(Convergence Club)アプローチである。2つのアプローチ方法を相互補完的に用いて、メキシコの地域格差について分析したいと考える。

回帰分析の枠組みにおいて、条件付き β 収束分析を行うためには、定常状態(steady state)の違いをコントロールする必要があり、州別に様々な経済データが必要となる。また、通常の収束実証分析で行われるクロスセクション分析(州別のデータを1時点で切る)を、パネル分析(州別のデータを時系列で用いて利用する情報を増やす)に拡張する。分析の精度をあげるためには、現地でデータを収集する必要があると考える。収束クラブアプローチでは、ノン・パラメトリック密度関数と非連続型移行マトリックス(transition matrix)を推計することにより、メキシコに2極化が生じているかどうかを検証する。この検証についても、精度をあげるためには、州よりも細かい市町村レベルのデータが必要であり、現地でデータを収集して分析する。

メキシコ北部と米国との収束については、上記の収束及び収束クラブアプローチではなく、「国境効果」(border effect)という観点から分析したいと考えている。国境をまたぐ都市間における物価の動きを「国境の幅」(width of

border)として市場の統合の程度を検証するアプローチである。この分析を行うためには、国境都市のマキラドーラについての見識を深める必要がある。伝統的国境マキラドーラの拠点として多数の日系企業が進出しているティファナを訪問し、マキラドーラがメキシコ北部と米国間の市場の統合にどのような役割を果たしているかについて考察する。

【結論・考察】

「グローバル化と地域所得格差」と題する本研究は、1. メキシコの地域間収束、2. メキシコ北部と米国との収束、という2つの実証研究を中心としている。

1. メキシコの地域間収束

メキシコの地域間収束についてクロスセクション分析を行った既存研究は、経済自由化が進められた 80 年代以降、 β 収束が検証されなくなったという点で一致している。本研究では、クロスセクション分析をパネルデータ分析に拡張し、観測不可能な時間一定の州の特異性をコントロールした。パネルデータ分析の結果は、経済自由化後も条件付き β 収束の存在が検証されるが、経済自由化前よりも収束のスピードは遅いというものであった。観測不可能な時間一定の州の特異性が何であるかについて、今後さらに考察する予定である。収束クラブアプローチでは、州レベルのデータを用いると、経済自由化前後で収束パフォーマンスが異なるという結果を得た。市町村レベルでの分析については、データを整理している最中であり、今後分析を進める予定である。

2. メキシコ北部と米国の収束

メキシコ北部国境都市のティファナにおいていくつかのマキラドーラを訪問した。メキシコ国境都市と米国国境都市の間の市場統合は部分的であるという印象を受けた。労働市場・財市場は「部分的」にのみ統合しているという印象を持った。こうした印象を、データを用いた実証分析につなげていく予定である。